
バカとテストとフラスコ計画

勳b

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バカとテストとurasco計画

【Nコード】

N8096Z

【作者名】

勲b

【あらすじ】

彼女、安心院なじみは思いついた。

「試験召喚システムを使ってurasco計画を再開しよう」

そんな彼女の思い付きに振り回された少年、羽川駿河は安心院さんの悪戯でFクラスに所属することに！？

さらには、Fクラスには過負荷な奴等も沢山いて

バカと過負荷に囲まれた駿河の行動とは

ブログ第二問（前書き）

不定期更新です

プロローグ 第一問

「やあ、駿河」

「……何の用だ」

「荒れてるね、そんな駿河も格好いいぜ」

「用件を言え」

「連れないねー、でも、そんな駿河を愛してるぜ」

「……………」

「睨むなよ、駿河に睨まれたら恥ずかしいだろ」

「用件は何だ」

「そんなにも聞きたいのかい？」

「……………」

「なあ駿河、進路を考えてないなら、僕と一緒に文月学園に来ないかい？」

「文月学園…………？」

「ああ、そうだ」

「目的は何だ」

「フラスコ計画さ」

「……諦めたんじゃないかったのか」

「また目指すことにしたよ、今度はゆっくりと遊び半分にね」

「……ッ！まさか、試験召喚システムは」

「駿河の予想通り、僕が立案、作成した」

「……フラスコ計画のためにか？」

「いや、立案した時の僕は完全に遊びのつもりだったさ」

「……文月学園」

「ああ、僕と一緒に行くつぜ」

「断る……って言うたら」

「駿河を半殺しにしてもYESと言わせるから、考えてない」

「……………」

「それじゃ、僕は行くよ」

「そうかよ」

「じゃ、愛してるぜ駿河」

「愛さないでくれ、安心院^{あんしんいん}さん」

「おいおい、違うだろ。駿河だけは、親しみと愛しさを込めてなじみと言うように」

俺がここ、文月学園に入学してから二度目の春が訪れたよ。

……学園に行きたくないなー

そう思いながらも、俺はゆつくりと校舎へと続く坂道を上る。

俺の周りにいる人は皆、自分が割り当てられるクラスに期待しているのか、皆何処かそわそわしている。

……いいよな

俺は溜め息を吐く。

俺は、自分が割り当てられるクラスを知っている。

……試験中にちょっとしたことをやっちゃったからね。

俺は再度溜め息を吐くと、坂道を上りきった。

「『駿河ちゃん』『見つけた』」

俺が坂道を上り切ると同時に後ろから声が聞こえた。

「球磨川……大丈夫か？」

そこには、去年の夏に一騒動起こした張本人、球磨川が息を切らしながら立っていた。

「『いやー』『寝坊しちゃったから走ってきたんだよね』『新年早々遅刻だなんて』『括弧悪い真似はできないんだぜ』」

「そう」

球磨川の話の流れながら歩きだす。

球磨川はそんな俺の横に立つと歩きだした。

「今日は遅いな駿河、そして、これからもこの時間に来るようにしろよ球磨川」

「朝からテンションが上がらないし、仕方がないですよ」

「『学校は遅刻ギリギリで来る』『それが楽しいんですよ』『鉄人先生！』」

「鉄人じゃないと何時も言っているだろう!!」

あだ名は鉄人じゃないですか。

「そんなどうでもいいことは捨てていてさ、なあ鉄人、外は寒いから早く封筒を寄越してよ」

「お前は先生の名前を何だと思ってるんだ!!……まあ、いい、受け取れ」

そう言っ て差し出された封筒を受け取る。

「『駿河ちゃんと』 同じクラスがいいな』」

こっちから願い下げだ。

笑みを浮かべながら封筒を開ける球磨川を無視して俺は歩きだす。

「ん？封筒の中を確認しないのか？」

「知ってますから」

「……そうか」

鉄人は俺に近づき、肩を優しく叩く。

いや、あんたから見たら優しくかもしれないけど、俺から見たら痛いからね？

「駿河、お前が試験中にあんな行動をとった理由が俺にはわからない」

俺だつてわからないよ。

「お前の成績だったらBクラス……いや、Aクラスにはいけたはずだ」

Aクラスに行きたかったなー

鉄人が黙るとKY（球磨川）が近づきながら俺に言う。

「『僕はやっぱり』『Fクラスだったよ』『駿河ちゃんは』『Aクラス？』『それともBクラス？』」

「お前と同じだよ」

俺は再び歩きだす。

驚いた顔をしている球磨川に俺はもう一度言う。

「俺はFクラスだ」

羽川駿河

そのスキルからかつては『何でも知ってた少年』と言われた少年

そして、『彼女』に魅入られた少年

そんな駿河の物語が始まった

ブローグ〜第一問〜（後書き）

こんにちはー 勦bでーす

普段はヤンデレ書いてます

この作品でもヤンデレ書くつもりです

P S 他の作品もよろしく

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8096z/>

バカとテストとフラスコ計画

2011年12月25日21時47分発行